

敦賀発電所の近況について

敦賀発電所の近況について、以下のとおりお知らせします。

1. 発電所の状況について（平成 29 年 7 月 5 日現在）

1 号機 沸騰水型	廃止措置中 タービン建屋除染室内排水ピット除染工事終了 (平成 29 年 5 月 15 日～6 月 9 日)
2 号機 加圧水型 (116 万 kW)	第 18 回定期検査中 (平成 23 年 8 月 29 日～未定)

() 内は定格電気出力

<新規規制基準への適合性審査に係る申請状況>

	申請	申請日	補正日	許認可日
2 号機	原子炉設置変更許可	H27. 11. 5	—	—
	工事計画認可	—	—	—
	保安規定変更認可	H27. 11. 5	—	—

2. 故障等の状況について（平成 29 年 6 月 1 日～平成 29 年 7 月 5 日）

(1) 法律に基づく報告事象

なし

(2) 安全協定に基づく異常時報告事象

なし

(3) 保全品質情報等

①敦賀発電所 1 号機 廃棄物処理建屋地下 1 階 濃縮廃液貯蔵タンク室での水漏れについて

廃止措置中の敦賀発電所 1 号機において、平成 29 年 6 月 19 日 11 時 06 分、廃棄物処理建屋地下 1 階の濃縮廃液貯蔵タンク室（以下、当該タンク室という。）の床漏えい警報が発報しました。このため、当時現場作業として行っていたタービン建屋 1 階床面にある排水口から当該タンク室に隣接している排水槽（以下、サンプという。）への水張りを停止しました。

また、運転員が当該タンク室を確認したところ、床面に深さ約 3 cm の水溜りを確認しました。（室内に溢れた水 約 1.3 m³）

床面に溢れ出した水の放射エネルギーを確認した結果、約 3.1 × 10⁴ Bq でした。

本事象による周辺環境への影響はありません。

調査の結果、サンプの水張りに使用したタービン建屋 1 階床面にある排水口の配管は、当該タンク室に引き込まれており、側溝から排水配管を通じて、サンプへ排水される流路となっていました。タービン建屋 1 階床面の排水口から当該タンク室の側溝に流入する水の量がサンプへの排水量を上回ったため、側溝から溢れ出たものと推定しました。また、サンプの水張りを実施するにあたり、排水流路の事前確認や検討が不十分でした。

対策として、今回水張りに使用したタービン建屋 1 階床面にある排水口の配管については、サンプに直接排水する流路に変更します。サンプの水張りは、床面にある排水口を使用せず、ホースを用いて直接行います。また、作業計画段階において、運転担当部署及び作業担当部署は、埋設配管施工図等の関連資料を活用した現場確認を徹底します。

(別紙－ 1 参照)

3. 敦賀発電所 3, 4号機 準備工事について (平成 29 年 7 月 5 日現在)

(1) 建設準備工事

現在、原子炉建屋背後斜面の緑化維持管理等の建設予定地の維持管理を継続して行っています。

(2) 仮設工事関係

現在、コンクリート製造・供給プラントの設備維持管理等を継続して行っています。

4. その他

(1) 敦賀発電所 2 号機用新燃料の輸送について

敦賀発電所 2 号機は、茨城県東海村の三菱原子燃料 (株) より、平成 29 年 6 月 30 日に 32 体の新燃料集合体を受け入れました。また、本日、28 体の新燃料集合体を受け入れました。今回の受け入れは、今後、同社の工場において新規規制基準適合に向けた工事が実施される予定であり、保管場所の確保が困難になることによるものです。

(平成 29 年 6 月 30 日、平成 29 年 7 月 5 日お知らせ済み)

(2) げんでんふれあいギャラリー催物のご案内について【開館時間：10 時～17 時】

<個人・グループでの芸術活動、趣味の発表の場としてご利用頂いております>

① 第 15 回「五人の会」写真展

写真愛好家「五人の会」(代表：吉田 俊雄 様) の 6 名の皆様による写真展です。各メンバーが最近取り組んできた、県内外の風景・伝統芸能等の写真を 35 点展示予定です。

(7 月 11 日～7 月 16 日)

② 土楽夢糸布 二人展 土・布・糸に私達の思いを込めたべっぴんさん

当ギャラリーでは初出展の、どーらくむすめ土楽夢糸布の尾上 節子 様、野木場 のきぼ 啓子 様による作品展です。和装の帯をリメイクしたバッグやパッチワーク、陶芸作品、ロマンボール等の作品を 30 点展示予定です。

(7 月 18 日～7 月 23 日)

③嶺南東特別支援学校 児童・生徒作品展

福井県立嶺南東特別支援学校の児童・生徒の作品展です。児童・生徒の興味や関心のあるものをテーマとして、図工、美術、個別学習等で作成した作品を100点展示予定です。

(7月25日～7月30日)

以 上

本事象は、法律に基づく報告事象や安全協定の異常時報告事象に該当するものではありません。

敦賀発電所 1 号機 廃棄物処理建屋地下 1 階 濃縮廃液貯蔵タンク室での水漏れについて

廃止措置中の敦賀発電所 1 号機において、平成 29 年 6 月 19 日 11 時 06 分、廃棄物処理建屋地下 1 階の濃縮廃液貯蔵タンク室*（管理区域）（以下、当該タンク室という。）の床漏えい警報が発報しました。このため、当時現場作業として行っていたタービン建屋 1 階床面にある排水口から当該タンク室に隣接している排水槽（以下、サンプという。）への水張りを停止しました。

また、運転員が当該タンク室内を確認したところ、床面に深さ約 3 cm の水溜りを確認しました。（溜まっていた水の量 約 1.3 m³）

床面に溢れ出した水の放射エネルギーを確認した結果、約 3.1 × 10⁴ Bq でした。

本事象による周辺環境への影響はありません。

※濃縮廃液貯蔵タンクは、平成 13 年に撤去されており、現在、濃縮廃液貯蔵タンク室にはタンク基礎のみが残されています。

1. 原因調査

調査の結果、以下の事が分かりました。

- (1) サンプの水張りに使用したタービン建屋 1 階床面にある排水口の配管は、当該タンク室に引き込まれており、側溝から排水配管を通じて、サンプへ排水される流路となっていました。
- (2) タービン建屋 1 階床面にある排水口から当該タンク室に引き込まれている配管の径に対し、当該タンク室の側溝からサンプへつながる排水配管の径が小さい構造にもかかわらず、サンプへの排水量を上回る水の量を流していました。
- (3) 作業計画時、運転担当部署及び作業担当部署は、タービン建屋 1 階床面の排水口の配管が、当該タンク室内の側溝に通じていることを確認していませんでした。

2. 推定原因

タービン建屋 1 階床面の排水口から当該タンク室の側溝に流入する水の量がサンプへの排水量を上回ったため、側溝から溢れ出したものと推定しました。

また、水張りを実施するにあたり、排水流路の事前確認や検討が不十分でした。

3. 対策

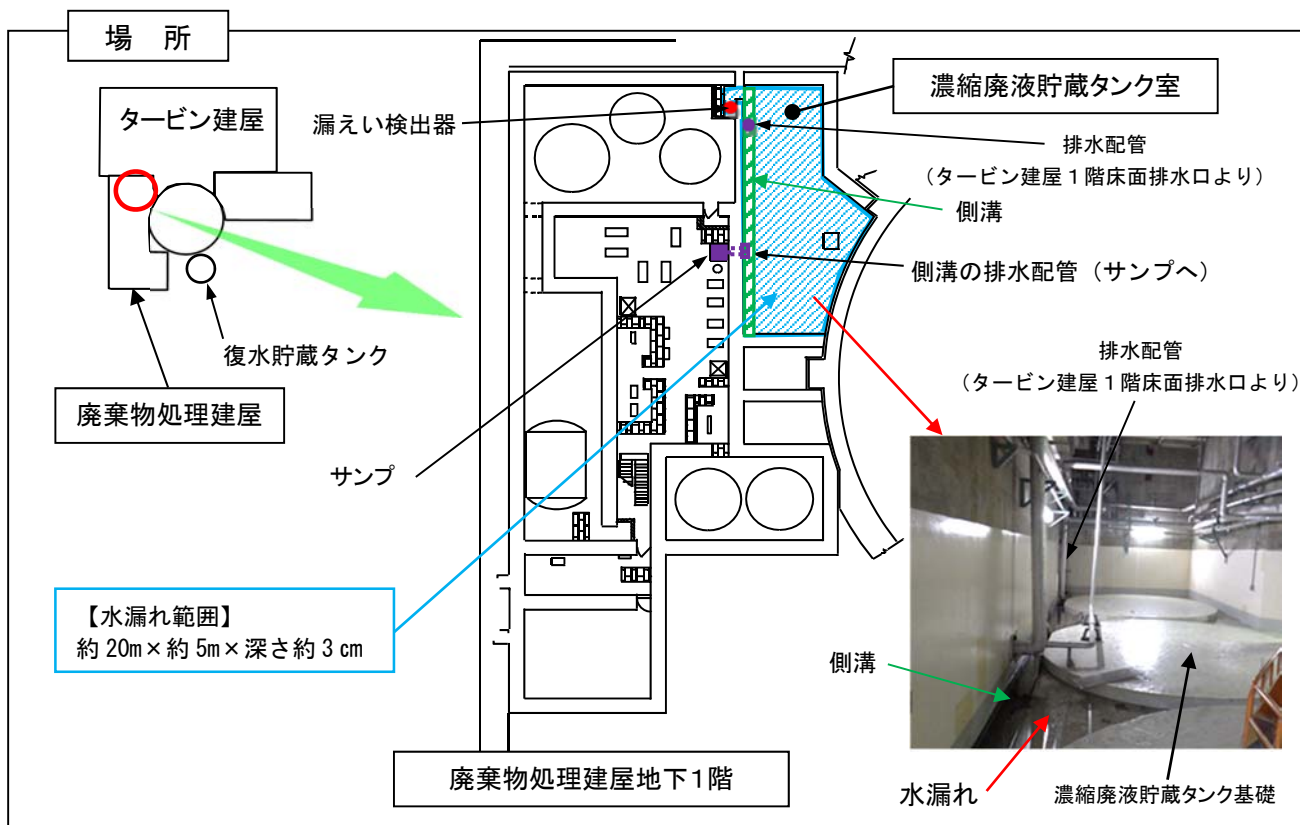
- (1) 今回水張りに使用したタービン建屋 1 階床面にある排水口の配管については、サンプに直接排水する流路に変更します。
- (2) サンプの水張りは、床面にある排水口を使用せず、ホースを用いて直接行います。
- (3) 作業計画段階において、運転担当部署及び作業担当部署は、埋設配管施工図等の関連資料を活用した現場確認を徹底します。

<添付資料>

廃棄物処理建屋地下 1 階 濃縮廃液貯蔵タンク室の水漏れ状況

以上

廃棄物処理建屋地下1階 濃縮廃液貯蔵タンク室の水漏れ状況



水張り時の現場状況

